

平成29年度 自己評価計画書

石川県立錦城特別支援学校

(No.1)

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
(1) 児童生徒の主体性を引き出すための授業改善と専門性の向上を図る。	① 児童生徒の主体性を引き出すための、授業改善や学習環境の整備、ICTを含む教材教具の効果的な工夫を行う。	研究推進課	研究授業等において授業改善に取り組んでいるが、効果的な学習環境の整備や教材教具の工夫により、児童生徒の主体的な活動を引き出す必要がある。	【努力指標】 児童生徒が主体的に学ぶための学習環境の整備や、教材教具等の準備をする。	児童生徒の主体性を引き出すため効果的な学習環境の整備や教材教具を何点準備できたか A：5点以上 B：3点以上 C：1～2点 D：0点	【達成基準】 A+Bの割合が80%以上 かつAが50%以上	9月と2月に教員にアンケートを実施する
	② 専門性の向上を図り、児童生徒の特性や能力に応じた授業を展開する。	教務課 研究推進課	教員の専門性の向上を図っているが、授業のねらいを明確にし、保護者等にそれを説明できることが必要となる。	【満足度指標】 保護者や関係機関の方々が、本校の授業内容に満足している。	授業参観等で授業内容に満足している保護者や関係機関の割合 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	【達成基準】 A以上	授業参観日にアンケートを実施する
(2) 系統的にキャリア教育を推進し、進路支援の充実を図る。	① 錦城版キャリア教育プログラムを個別の教育支援計画等に活かし、児童生徒一人一人に1つ以上具体的な実践を行う。	進路支援課 各担任	錦城版キャリア教育プログラムの取り組みを保護者に説明することに重点を置いていたが、児童生徒一人一人のキャリア発達を育成する取り組みの充実が必要である。	【成果指標】 錦城版キャリア教育プログラムを個別の教育支援計画等に位置づけ、個別のねらいに対して向上が見られる。	キャリア発達面の個別設定の項目で向上が見られた児童生徒の割合 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	【達成基準】 B以上	9月と2月に個人内評価を行う
	② 毎月のあいさつ運動等を通し、教員自らが見本を示すことで、様々な場面であいさつができる児童生徒を育てる。	指導課 各担任	社会参加をめざす児童生徒にとってはあいさつは基本的なことであり、よりよいあいさつの仕方をさらに定着を図る必要がある。	【成果指標】 個に応じた方法であり、よりよいあいさつの仕方に向上が見られる。	あいさつの仕方に向上が見られた児童生徒の割合 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	【達成基準】 B以上	9月と2月にチェックシートで確認する
	③ 公共施設の清掃や作業製品の販売等を通して、生徒の就労面での実践的な能力や態度の育成を図る。	高等部	継続的な地域での清掃・販売活動を通して実践的な力を養ってきた。さらなる向上のため、顧客側の視点での力の育成に努める必要がある。	【成果指標】 就労面の能力や態度に向上が見られる。	就労面での能力や態度が向上したとする生徒の割合 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	【達成基準】 B以上	5・9・2月に就労サポーターと共に評価表で確認する
	④ 進路だよりや進路掲示板の活性化を図りつつ、保護者が希望する進路情報を提供する。	進路支援課	進路だよりや、進路掲示板の適時性を持ったものにして、児童生徒の生活年齢に応じた進路情報を保護者に的確に提供する必要がある。	【満足度指標】 各部の保護者が知りたい進路情報を提供できている。	学校からの進路情報はわかりやすく参考になったかどうか A：十分参考になった B：やや参考になった C：あまり参考にならなかった D：参考にならなかった	【達成基準】 A+Bが70%以上	9月と2月に保護者アンケートを実施する

平成29年度 自己評価計画書

石川県立錦城特別支援学校

(No.2)

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
(3) 児童生徒の健康の維持、体力の増進に努める。	① 体づくりや体育の授業を通して、児童生徒の体力向上に努める。 また、重度重複児童生徒の健康維持増進、身体機能の維持に努める。	保健課 各学部 (知的)	昨年度は、小学部の「のびのびタイム」、中学部の体づくり等を通じた取り組みで、それぞれ達成度判断基準に達した。体力向上は、本校児童生徒にとって重要な課題であり、継続して取り組む必要がある。 また高等部では昨年度は新体力テストに取り組み、いくつかの種目で記録の向上が見られた。生徒実態に即して項目を絞るなど、課題を明確にして継続して取り組む必要がある。	【成果指標】 児童生徒に体力の向上が見られる。	体力の向上が見られたとする児童生徒の割合(各部ごとに評価する) A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	【達成基準】 B以上	9月と2月に取組みシートで判断する
		保健課 全学部 (肢体)	昨年度は新規に取り組んだ件数で評価したが、新たなことが効果的でない場合もあった。個別のねらいに応じた取り組みを進め、健康の維持増進を継続して取り組む必要がある。	【成果指標】 個々に応じた取り組みを通し、児童生徒の健康の維持増進を図る。	個々に応じた評価規準で健康の維持増進が図れた児童生徒の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	【達成基準】 B以上	9月と2月に取組みシートで判断する
(4) 地域との交流を促進し、情報を発信することにより、社会への理解啓発を図る。	① 公共施設の清掃や作業製品の販売を通して本校の取り組みを地域に発信する。	高等部	これまで生徒の技能の向上のため、地域での清掃・販売活動を行ってきた。継続的な取り組みで本校生徒の就労に関する地域の理解啓発を促進していく。	【努力指標】 本校の教育活動の理解啓発のため、清掃・販売活動を通して地域の方々と接する場を増やす。	地域活動及び地域の方と接する活動の年間回数 A：20回以上 B：18回以上 C：15回以上 D：15回未満	【達成基準】 B以上	2月までの実施回数
	② 錦城RUN舞のよさこい披露を通して地域との交流や理解啓発を図る。	総務課 よさこい委員会	錦城RUN舞の活動は、地域の祭りや福祉事業所でよさこいを披露し、本校への理解につながっているが、ここ数年参加者の固定化が見られ、活性化を図る必要がある。	【努力指標】 地域の行事に本校の児童生徒・教職員が積極的に参加する。	地域行事でよさこい披露に参加した児童生徒と教員数の合計平均 A：35人以上 B：30人以上 C：25人以上 D：25人未満	【達成基準】 B以上	2月までの各回ごとの参加人数を数える
	③ ホームページで児童生徒の活動の様子を発信することにより特別支援教育の理解啓発を図る。	情報支援課 各学部	ホームページの更新は行事の報告を主に熱心に行われている。今後は、適時性を持った更新、日常の教育活動の発信や販売活動等の予告など内容の充実を図る必要がある。	【努力指標】 適時性を持ってホームページを更新し、児童生徒の活動の様子等を保護者や地域に発信する。	各学部が1年間に行ったホームページの更新の回数 A：40回以上 B：30回以上 C：20回以上 D：20回未満	【達成基準】 B以上	2月までの各部の更新回数を数える
(5) いじめを見逃さない学校づくりをする。	① 児童生徒の様子等を職員間で共通理解を図り、小さなトラブルを見逃さずに対応していじめの未然防止に努める。	指導課 教頭	昨年度、トラブルはあったが、いじめにまでは至らなかった。今後も、小さなトラブルを見逃さずに対応をとる必要がある。	【努力指標】 いじめの未然防止のため小さなトラブルを見逃さずに対応する。	小さなトラブルを見逃すことなく対応していた。 A：とてもあてはまる B：あてはまる C：あまりあてはまらない D：あてはまらない	【達成基準】 A+Bの割合 100%	9月と2月に職員アンケートを実施する